

金曜日

知・技の創造
ものづくり大学発

私の研究室では、身の回り 上では厄介でもあり、また面のいろいろなものの使いやす 白味でもあります。

さへ使用感に關する研究を行つてゐます。人が住まうこと生活するところを対象にしたいはゆる人間工学的な研究です。現在までに「左右技能」や「道具の使いやすさ」「居住性からみた床のかたさ」「居住空間における家具等の高さ」「ものゝ重さの感じ方」などの課題について検討しており、人、使用者の視点が重要な位置を占めます。この「人」の存在が研究を進めるべく、育てるべきです。ところで、大学の役割は教育と研究です。最近では地域

教育と研究

高橋 宏樹 建設学科教授

貢献、社会貢献も重要な役割。大学院で学んだ経験を生かして、企業に就職し、研究員として活躍しています。

「L」を省略します。学校は元々、大学と同等の研究機関です。大学では、学生と共に取り組むことが多く、研究には正解がないと思います。授業といえは静かに聴講するイメージが上でも重要なことです。



研 社会人となって企業などで働く。たかはし・ひろき 順天堂大学体育学部卒。同大学院修士課程修了後、東京工業大学工学部建築学科助手を経て02年ものつくり大学講師。08年より現職。博士（工学）。

究の代わりのひとつの作品をつくる卒業制作や卒業設計を行う学生もいますが、いずれにしても、未知を既知にすることを目的とします。私は、これらの卒業研究や制作は、A1そのものかと思つてゐます。つまり、大学では、以前からA1を（A1として意識していたかどうかは別として）表施してゐるのです。卒業研究や制作は、学生にとってはA1のうつつつけの舞台であり、教員にとっては研究成果のための絶好の機会なのです。

社会人になって企業などでは「仕事」をするとは、A1の連続であることは思ひます。学生は「勉強」、社会人は「仕事」ではなく、早くかかるとA1に慣れおくことが、学校でA1を取り入れてゐるの主旨なのでしょう。「研究」は英語で「Study」にはなつたが、「Study」にはなつたが「勉強」と同じ日本語があてられてゐます。つまり「研究」は教員自身の「勉強」であり、教員自身の「勉強」なくして卒業研究の指導もありません。大学もまた学生も教員もA1をするところなのです。